

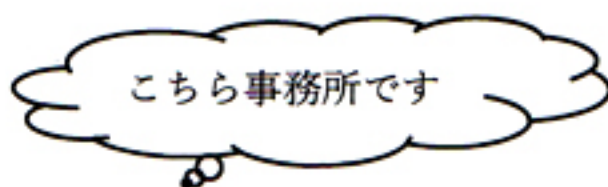
11 月 霜月(しもつき)立冬、小雪の月になりました。

11 月 3 日文化の日です。7 日立冬で 15 日『七五三』、22 日小雪、
23 日勤労感謝の日となっております。

暦の土用中の忌み日の意味があるので掲げてみました。

土用神は土を守る神様で、春は台所、夏は門、秋は井戸、冬は庭にあって、
それぞれの土気を守護しているのです、各時期にそれらの場所を動かせば祟りが
あるという言い伝えです。春は台所の改良を凶、夏は門戸入り口の修造を凶と
し、秋は井戸の水害修理を凶、冬は庭などの修造を凶として避けるように注意
が必要とありました。色とりどりの錦の秋も過ぎ裸になった木々に冬の訪れを
感じています。

幸田 常一



本宮市の水害復旧の工事はほぼ完了し、
須賀川市の現場をお世話になっております。

新型コロナウイルス感染が拡大する中で、感染防止の観点から「新生活の様式」が提案され、それぞれの立場で実行に移されてきている。それと同時に、「新生活の様式」以外に“価値観の変革”をもたらしている動きも垣間見られるように思えるのである。今回はその辺の事情を探ってみたい。果たして情報収集がうまくできるかどうか。

まず、感染防止と経済の両立で一つ話題になったこと。外出自粛の中でも、最低食生活は欠かせない。食品購入には出かけなければならぬ。三食全部を家庭料理で賄うのもやりきれない。たまには外食もしたい。そこで登場したのが、ドライブスルーやテイクアウトである。消費者にとっても事業者にとってもプラスである。よく考えついたものである。この二つの内テイクアウトについてだが、カレー屋が都内では4月以降250以上ふえているそうだ。その増えている理由は、カレーはテイクアウトに最も適していること、少ない設備で調理が可能なこと、しかも店の回転率がよいことが挙げられている。例えば、夜バーを営んでいてもお客が少なく、収入をカバーするのに昼も何かやろうとしたら「カレー屋」が手っ取り早いということだ。そうは言っても、いかに特徴あるカレーを提供できるかは勿論問われる。消費者の舌は肥えている。やってもいつまで続くかだ。

次に感染防止のために「三密」を避けるよう再々呼びかけられているが、この「蜜」を避けるために、人口が過密状態にある「大都市」から脱出しようとの動きも出始めている。特に若い世代に多く見られるようだ。あるアンケート調査によれば、20代から30代は3割近くが自然豊かな地方への移住を考えているか、決断をしているとのことである。その際、地方へ行ってどういう職業を選択できるかが重要だ。中にはテレワークが可能な業種で移住可能な人もいるかも知れない。これまでもIT事業に従事していた人で、地方に移住して農業をやっている人などもいるとのこと。子育て世代であれば、自然環境に恵まれたところで子育てをしたいということでの選択もあろう。結婚していれば、先ずは夫婦の価値観（収入が減っても、大事にしたいもの）が一致しなければ、移住は実現しない。

企業でも地方への本社機能の移転を考えているところがある。人材派遣やコンサルティングなどの事業展開をしている「パソナグループ」である。本社は東京・千代田区にある。従業員2万人位の大手だ。そのパソナグループが既に“地方創生ソリューション”事業を展開している淡路島に本社機能の一部を移転するというのだ。本社で人事・経営企画などを担う1800人のうち、3分2に当たる約200人を2004年5月までに淡路島へ異動させるという。いわゆる“リモートワーク”で「どこでも仕事ができることを実証したい」というわけである。地方の立場から言えば、是非うまく行って欲しいものである。

地方への移住といえ、最近の県内の例としては飯館村のことが挙げられる。8月に飯館村への移住者が100人に達したというのだ。100人目に移住者は、東京都渋谷区から移住した造園業を営む塚越栄光さんだ。塚越さんは地元商店街振興組合が行う飯館村復興支援活動に参加していて、交流事業の中で村が掲げる「までいライフ」に魅かれ、「までい大使」になるなどいつかは移住しようと思うようになったそうだ。そしてそれが終に実現したのである。大都会にはない村の魅力に引きつけられたわけである。もともと住んでいる者にとっては、ありふれたものにしか感じていない自然環境や暮らしぶりが、大都会の人にとっては、魅力あるものとして捉えられることもあるのを忘れてはなるまい。

最近の新たな動きとしてびっくりしたことがあった。それは、山林を扱う不動産業者の話である。これまで、山林は余り買い手がなく、取引事例が少なかったのが、最近いい物件がないかとの照会が多くなったとのこと。それも林業とかに関係ない人が林地を求めているというのだ。何故なのか。そこで実際林地を買い求めた人を追跡したマスコミ・レポートによると、何と自前（家族のみ）のキャンプ場に使っているというのが分かったので

ある。公営のキャンプ場では密になりがちなので、それを避ける狙いがある。でも、そこまでやるとは驚きだね。考えてみれば、林地の地価は安いのは安いんですけども。もう一つ。今別荘地の古い別荘（使われていない）が売れているというのだ。これも「蜜」を避ける動きである。大都会を脱出して旅行しようと思っても、旅行先が密であればまた不安、そこで蜜が避けられる「別荘」で過ごせれば安心というわけである。

次に新型コロナウイルス感染は、人々の働き方にどんな変化をもたらしているのかを見てみたい。例えば“テレワーク”というのはごく普通に使われるようになったといえる。我が近所でもその働き方をしている人がいる。会社や事業所に出勤しないで在宅勤務をするのだ。主にパソコンを使っただけの仕事が多いようだ。そして週に何日かは出勤するのだろう。これも、通勤電車と会社での「蜜」を避けるためである。では、会社のオフィスはどうなっているのだろう。会社の方針（テレワークの割合等）によって異なるが、普段と違って多分がら空きとなっている。であれば、オフィスはもっと小さくても良いということになる。そこで賃貸オフィスであれば、不要になった分は契約解除にということもあり得る。現にそこまでいってるケースもあるという。いろいろ波及するものだ。その波及といえば、都内の山手線などでは、終電車の時刻を繰り上げしようとの動きになっている。終電車の時間帯に乗る人が確実に減っているのだ。働き方も変わってきているし、遅くまで飲み歩く人も少なくなっているのが影響している。どこまで変わっていくのであろうか。

最後に感染拡大の中で、非常事態宣言がなされ、外出自粛になったことで感じたことをいくつか。まず、自分は田舎に住んでいて良かったなと思った。外出する機会はなくとも、家庭菜園を始め、それなりに屋敷周りが広くて、やる事が結構あって手持無沙汰ということなく過ごせた。なべて行事は中止となり外出することがなくなったお蔭で、かえって庭木の手入れや草刈りなど例年に比べ行き届いてできたように思う。これは小生ばかりでなく、田舎に住んでいて畑があったり、身近に触れられる自然があれば、ここに棲んでいて良かったなと思ったに違いない。故郷の良さを見直すきっかけになったと思う。

見直すきっかけと言えば、外出自粛でホームセンターの商品の売れ筋に変化が見られたという。何と売れ上げが伸びたのが、野菜の種や苗とプランター、そして日曜大工などの工作用品というのだ。自宅にいて、やれることを考えたらそこへ行きつく人が結構多かったということだ。DIY (Do it yourself) という言葉があるが、人間の本性として体（手が主役）を使っただけのものを創りたい（創造）のだろう。また、全部お金で買って済ませるのも可能だが、人間は“いざという事態”に対応する上でも、自分でやれるものを持っていた方が良くといえる。お金では買えない“創造の喜び”を味わうのもいいと思うが。

もう一つ孫の話をつけ加えたい。同居していた孫（男子）がこの4月大学に進学した。首都圏の大学なので、入学式はやらない、大学には来るべからず、講義はオンラインで行うで、8月まで在宅となった。オンラインでの講義があれば部屋に閉じこもるが、その他の時間で我々祖父母と接することが多くなる。祖母からは夕食の支度の時調理法を習い、それと菜園では野菜類の育ち具合を見てもらい、そして採りたてものを食べてもらった。それぞれの野菜がおいしいと言ってくれた。採りたてのものがいかにおいしいかを体験してもらったのである。スーパーで並べられている姿しか分からないのでは誠に残念だ。在宅でしんどかったろうが、そこで別の学ぶものがあったとすれば幸いだ。

紀伊半島の秀峰・霊峰4山

紀伊半島の三百名山は12山ある。これまでに2回の山行(*)で8山を登り、今回は残っていた4山に登った。3回とも郡山からの夜行バス往復利用。

(百は日本百名山、◎は日本二百名山、○は日本三百名山)

(*) 2010年6月(妻と二人): 八経ヶ岳(百)、大台ヶ原(百)(ねじりはちまき140号)

2016年2月(単独): 金剛山(◎)、俱留尊山(○)、三峰山(○)、高見山(○)、竜門岳(○)、大和葛城山(○)

【日程の概要】

10月15日(木) 夜行バス 郡山駅前発21:00→大阪 バス泊
16日(金) 大阪あべの橋着7:30、電車移動、レンタカー(五條)借用
移動、伯母子岳。 野迫川村 民宿泊
17日(土) 護摩壇山。移動 十津川村 民宿泊
18日(日) 釈迦ヶ岳。移動 稲村ヶ岳山荘 泊
19日(月) 稲村ヶ岳、大日山、山上ヶ岳。移動 吉野町 民宿泊
20日(火) 金峯山寺蔵王堂 朝の勤行、大峰奥駈道出発地点確認、レンタ
カー返却、電車移動、京都で友人と会食
夜行バス 京都駅八条口発21:53→郡山 バス泊
21日(水) 郡山駅前着7:20

【今回登った山の概要】

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 伯母子岳(◎おぼこだけ1344m) | 熊野参詣道小辺路(こへち) |
| 2 護摩壇山(○ごまだんさん1372m) | 和歌山県最高峰・龍神岳(1382m) |
| 3 釈迦ヶ岳(◎しゃかがだけ1800m) | 大峰奥駈道(おおみねおくがけみち) |
| 4 山上ヶ岳(○さんじょうがたけ1719m) | 大峰奥駈道、稲村ヶ岳(1726m) |

10月15日(木)

郡山から夜行バスに乗ったのは自分一人、一階の席は5席あり、自分一人だった。密を避けられたのは良かったが、タイヤとエンジンの近くで、思った以上に震動が激しく、寝心地は良くなかった。

10月16日(金)

京都、大阪での降車客からすると、このバスの乗客は自分を入れて多くても10人未満と思った。(二階建て36人乗り、運転手二人)

あべの橋には予定の8時よりも30分ほど早く着き、JR天王寺駅での乗り継ぎもスムーズにいき、JR五條駅(奈良県)には9時に着いた。レンタカー会社

に迎えに来て貰い、1000ccの車を4日間借りる。送っておいた70リッターのザックを積み込んで、予定より1時間早く出発することができた。

当初は、初日に護摩壇山に登り、2日目に伯母子岳に登るつもりだったが、翌日は雨の予報なので登る順序を変更した。野迫川(のせがわ)村の伯母子岳登山口に向って高野龍神スカイラインを進み、左手に大きな「野迫川温泉ホテル」と「民宿かわらび荘」の看板があったところで左折し、舗装路の狭い林道を下って行く。ところどころに案内標識があり、既にこの道が「高野山」と「熊野本宮大社」を結ぶ「熊野参詣道小辺路」(*)であることが分かった。カーブのきつい勾配の急な林道は参詣道の一部であったり参詣道を縫って通っているらしい。

(*) 熊野参詣道小辺路(KUMANO-SANKEIMICHI-KOHECHI)

は、真言密教の総本山・高野山と熊野本宮という二大聖地を最短距離で結ぶ参詣道で、・・・伯母子峠・・・1000m級の峠を越えて熊野本宮へと至るハードなルートで、途中は山登りのきついアップダウンを繰り返すが、石仏や地蔵、苔むした石畳、茶屋跡や屋敷跡等、昔の古道の雰囲気数を多く残している。(世界遺産熊野参詣道登山マップ)

途中、歩いている行者(ぎょうじゃ)を見かけた。東屋(あずまや)で休憩している人もいた。登山者とは雰囲気が違う。東屋の人は後刻、伯母子岳からの下山途中に出会うことになる。

宿泊予定の民宿に立ち寄り、これから伯母子岳に登るので宿への到着が遅くなるかもしれないと話した。

○伯母子岳

12時過ぎ、民宿から下ったすぐ近くの大股橋の登山口着、「世界遺産・熊野古道小辺路」の大きな看板が建っていた。大股橋向かいの集落は山の急斜面に民家が10軒以上張り付いている。

12:30、橋を渡り民家の間の急な狭い道を歩いて行く。墓地を過ぎると伯母子岳登山口の標識があり、植木の杉林の中に入っていく。道は緩やかで、一般の登山道とは趣が異なる。しばらくすると杉林に囲まれた小広い平地に着き、「萱小屋跡」の説明板があった。昔は旅籠があり、田んぼもあったらしい。

少しずつ急坂の広葉樹の自然林になり、桧峠13:45着、小休止。紅・黄葉は始まったばかり、黄色が多い。樹木の先の高い所に山容の美しい山体が見えた。

14:12、左に伯母子峠に行く参詣道と右の護摩壇山方面に向う道の十字路から、伯母子岳山頂に至る傾斜のある山道に入っていく。

14:30、日本二百名山伯母子岳、細長く広い山頂に着く。遮る樹木はなく高曇りで周囲の山々の眺望が良い。西側を指している標識に「護摩壇山→15.0km」とあり、山頂稜線にアンテナとタワーを認めることができた。

日没が気になり、14:45、稜線を北東に下り伯母子峠に向う。10分ほどで着

いた峠にはトイレと無人の小さな避難小屋があり、「世界遺産・熊野古道小辺路」の説明板があった。小屋を覗いてみると、キッチンと整理されていた。

十字路の手前で編み笠をかぶった行者と出合い話をしたら、先刻 12 時前に林道を通った際に見かけた東屋で休憩していた人だった。今朝早く高野山を発って、伯母子峠の小屋に泊まり熊野本宮を目指すとのこと。「小辺路」が実際に歩かれ、小屋も利用されていることに感激し、自分も歩き通してみたいと思った。

十字路から往路を戻り、薄暗くなり始めた大股橋の登山口に 16:40 着。所要 4 時間 10 分、「熊野古道小辺路」の雰囲気味わいながら、日没を気にしながらの少し急いだ山行を無事終える。

民宿の泊り客は自分一人だった。ストーブが焚かれた食堂でビールを飲みながら、ヤマメの味に似ているアマゴの塩焼き、地元産野菜が入った鴨鍋をつつき、うどんすきを食べ、宿のご主人と話す。

- ・野迫川村は「平家の里」で、近くに「平維盛歴史の里」(*)がある。
- ・新型コロナの影響で「小辺路」行脚や伯母子岳登山の団体のお客さんが減り、特に外国人のお客がストップしている。民宿なども休業しているところが多い。
- ・宿泊費に GO TO トラベルの制度を利用でき、地域クーポン券も利用できるなど・・・

クーポン券を利用して、酒米に野迫川村産のうるち米を用いた生酒「純米酒 伯母子岳」をいただいた。おいしかった。

夜中に屋根を叩く雨音が聞こえた。

(*)「平維盛歴史の里」：野迫川は、平清盛の孫の平維盛が熊野・吉野の山中をさまよい歩き、最期を遂げたと伝えられる場所。維盛塚や資料館などがある。(奈良県観光公式アプリ)

10月17日(土) ○護摩壇山

雨は止みそうにない。昼のおにぎり弁当を用意して貰った。山中の集落には食堂はもちろんコンビニなどはない。

民宿発 7:45、高野龍神スカイラインに出て南下し「ごまさんスカイタワー」を目指す。スカイラインは奈良県と和歌山県の境を通っていて、ナビではひっきりなしに“奈良県(和歌山県)に入りました”と告げてくる。奈良県に入ると画面に「奈良の大仏と東大寺」の写真、和歌山県に入ると「紀州梅」の写真が出てくる。うるさいが面白い。

スカイタワー駐車場には 5~6 台の車が駐まっていた。車の中で準備し雨具を着け、9 時過ぎ出発する。幅の広い勾配の緩やかな石の階段は滑って歩きにくい。右手に、護摩壇に積み上げた護摩木を模した独特の形をしたスカイタワーがそ

びえ、両脇はミズナラやブナなどの若木（矮小木？）が自生している。

15分かからずに日本三百名山護摩壇山(1372m)山頂着。東屋や方位盤があるが、雨で見通しが無いので休まずに先に進み、緩やかに下り、登り返すと20分ほどで龍神岳(1382m、和歌山県最高峰)に着いた。山頂にはNHKの大きなアンテナがあり、前日に15km先の伯母子岳から見えたのはこのアンテナとスカイタワーだった。往路を駐車場まで戻る。1時間弱の雨の中の山行だった。

スカイタワーの展望台には望遠鏡と大きな写真パネルがあり、天気良ければ素晴らしい眺めだろうと思った。10時半、スカイタワーを後にする。

今回の山行のメインは、釈迦ヶ岳と山上ヶ岳だが、山上ヶ岳の隣の稲村ヶ岳（女人大峰とも称される）にも登りたいと思っていた。稲村ヶ岳山荘の主人からは、釈迦ヶ岳登山の後に洞川温泉(*)まで移動し、さらに山荘までは2時間半かかるのでなかなかきつい、山は4時半頃には暗くなると言われていた。

(*) 洞川（どろがわ）温泉：修験道(大峰信仰)の隆盛と共に登山基地として栄え、旅館・土産物店・食事処が軒を連ね温泉街を形づくっている。

(天川村パンフレット)

移動をスムーズに行うため、事前に釈迦ヶ岳の登山口を確認し、実際に洞川温泉まで移動し、稲村ヶ岳登山口近くの駐車場の見通しをつけた。温泉街の中にあつた小さなGSで燃料を補給し、宿泊する十津川村の民宿に着いたのは17時を過ぎ暗くなつていた。スカイタワーからは200km近く走つていた。

この日の宿泊者も自分一人でボリュームのあるごちそうだった。追加で頼んだ小瓶の“十津川 玉置山 神代杉”という地酒は19度あり、飲みきれなかつた。翌日の朝食を5:30に頼み込んで、昼食の弁当もお願いした。

10月18日（日）○釈迦ヶ岳(1800m)

5:50 民宿発。前日の下見の成果として迷うことなく太尾登山口に6:40着、既に10台以上の車があつた。青空が多く、今日は良さそうですねと話している人がいた。登山届けを投函し7:00、階段を登り山に入っていく。

初めは背丈を超えるスズタケとシャクナゲの茂る視界のない道を登って行くが、整備されていて歩きやすく、すぐに尾根歩きになり風衝草原なのか丈の低い笹原の中にブナの木がまばらに生育していて開放感があり、見通しも良い。

緩やかにアップダウンする尾根道から、右手前方に尖つた岩峰の特異な山が見えた。これが大日岳(1568m)とすればその左側の大きな山が釈迦ヶ岳で、大日岳の右側に連なる小さなピークが連続する山々が南奥駈道かなと思つた。

古田の森の、笹原の中に、木肌がまだら模様のブナの木がオレンジ色の葉をつけて散在している風景は、既視感のある癒やしの空間だ。

上部の霧が少し濃くなってきて山頂部が見えなくなつてきた。

湿地帯の千丈平を過ぎ針葉樹林の中を登って行くと「山頂↑」と「奥駈道→深仙ノ宿」の標識があり、丁度山頂方向から大きなザックの中年男性が降りてきたので聞いたら、吉野から大峰奥駈道を縦走してきたとのこと。吉野側からすると山上ヶ岳を越えた小笹（おざさ）宿の避難小屋と弥山（みせん 1895m）の弥山小屋に泊まり、今朝6時に出てきたとのこと。下北山村側の前鬼登山口に降りて15時発のバスで帰るという。いつか大峰奥駈道を縦走する時の参考にしよう。

そこから10分程で、9時前、日本二百名山釈迦ヶ岳山頂に着いた。2時間の山行だった。

山頂には台座を含めると3mを越えるブロンズ製の釈迦如来像が建っていて、像を背景に先着の若者に写真を撮って貰う。周囲は霧の中で眺望は得られなかった。登ってきた熟年の男性2人は、少し待てば晴れるのではないかと行って、お湯を沸かし、カップヌードルを食べていた。若い女性の3人のグループもやって来た。風もあり寒くなってきたし、下山後の移動と稲村ヶ岳山荘までの山登りがあったので、自分は天候の回復を待たずに下山することにした。

9:15 下山開始。途中、熟年やファミリーなど多くのグループが登って来た。振り返ると釈迦ヶ岳上部の雲は去っていなかった。10:50 登山口着。

○稲村ヶ岳山荘

11:00、天川村の洞川温泉に向けて出発。前日に同じルートを走っているので安心だ。途中で弁当を食べ、国道168号線から、狭くカーブの多い県道53号線を経由して、13:20、名水百選「ごろごろ水」の採水場である「ごろごろ茶屋」の駐車場に着く。

14:00 母公堂(*)手前の石の階段を登り、杉の植林帯に入っていく。

(*) 母公堂 (ははこうどう) : 修験道の開祖、役行者 (えんのぎょうじゃ) の母をお祀りするお堂で、安産に靈験あらたかとされ、線香の煙が絶えない。
(天川村パンフレット)

しばらく登って行くと右手の稲村ヶ岳登山口からの道に合流する。下山のグループには女性だけか女性が含まれるのが多かった。休憩していた若い男女のグループと立ち話になって、失礼とは思ったが「今でも山上ヶ岳の女人禁制=女人結界は守られているんですか?」と聞いてみたら、女性から守られているとの返答があり皆うなずいていた。

15:00 吉野杉の美林に囲まれた法力峠で休憩。曇っているせいもあり、薄暗くなってきた感じがした。山際から流れる沢を渡るのに鎖の張ってある難所を越え、16:30、稲村ヶ岳と山上ヶ岳の分岐点、「山上辻」に着いた。立派なトイレがあり、太陽光発電のパネルが付いていた。何とか真っ暗になる前に着いてホットした。稲村ヶ岳山荘はすぐ近くだった。

小屋に入るとヘッドランプを付けた小屋番の主人 (70歳台初めか) が笑顔で

迎えてくれた。何個か蛍光灯が灯っていた。小屋と寝具の説明を受け、宿帳に記入し宿泊代を前払いする。寒いのでストーブ(灯油)もお願いする。翌日の昼食のおにぎりも頼む。

宿泊は自分一人。一人のために洞川温泉から2時間半をかけて上がってきてくれたとのこと。恐縮だ。

17:15 夕食。湯豆腐、籠で奥さんが作ったとんかつに湯煎したレトルトのカレーをかけたカツカレーがおいしかった。自分は缶ビールを飲みながら質問したり話を聞いた。主人の話は

- ・この小屋は60年前に父が建てて以来続けている。公費は入っていない個人経営でテーブルなども自分で板を担ぎ上げて作っている。
- ・祖父の代に洞川温泉から稲村ヶ岳に登るルートと、山上ヶ岳と稲村ヶ岳を結ぶルートを開削し、鍾乳洞の発掘にも携わった。父も別の職との兼業で続けてきた。
- ・自分もサラリーマンを定年退職してから山荘経営に携わっている。
- ・次の週末は土曜日5人、日曜日に3人の予約が入って入る。
- ・電気は天川村の管理するトイレ用の太陽光発電から引いている。19時半頃に消灯するのでヘッドランプを使用すること。 など

寝具はマットレスと毛布、カバーのついた枕が用意してあり、コロナ対策のために持参することを求められたシュラフに入り、20時頃就寝。

10月19日(月) ○稲村ヶ岳(1726m)、大日山(1689m)

ご主人の勧めで、朝食前に稲村ヶ岳と大日山に登ることにした。サブザックに雨具と水を入れて6:10小屋を出発。大日山の登り口を右に確認してその先の稲村ヶ岳に向う。葉が落ち始めたブナなどの自然林の中を緩やかにアップダウンしながら登って行く。取り付き地点からは急坂となり鎖場や、鉄製の階段もあり変化があって面白い。6:45 稲村ヶ岳山頂着。

山頂の展望台からは、今にも雨になりそうな曇り空の下、この後登る山上ヶ岳を中心とした大峰奥駈道の稜線は見えしたが、ほかの山々は同定できなかった。

6:55 下山開始。山頂直下の紅葉がきれいだった。天然のヒノキやシャクナゲもあり、朽ちたヒノキの根元からは子というか孫というか何本もの新たなヒノキが育ち始めていて、盆栽のようだった。

少し戻り、大日山に取り付く。稲村ヶ岳よりも急峻で鎖場や鉄の梯子を慎重に登る。山は切れ落ちていてすぐ隣の稲村ヶ岳の断崖になっている岩は黒々と苔むし、草が紅(黄)葉し枯れていて、なんとも表現しがたいみごとな景観だった。

大日山の狭い山頂は樹木で囲まれて眺望はなく、木造の小さな社が2つあって下界と隔絶された霊場の気が満ちていた。右の社は傾いていた。本尊様は大日

如来像だった。

入峯 (にゅうぶ) 記念のお札 (護摩木) がたくさん奉納されていて、新しいものの中に、「疫病早期終息祈願」令和二年四月二十九日 石切山金剛寺天地観音宝珠会 というのがあった。小屋の主人に後で聞いたら、昔 (修験道の世界) は稲村ヶ岳の山頂は大日山だったとのこと。

小屋に戻り朝食をいただき、今にも雨になりそうなので初めから雨具の上下を着けて9時、山上ヶ岳に向って出発する。

膝下くらいまでの笹の中の道を緩やかに登り下りしながらトラバース (*) 気味に進んで行く。樹林はまばらで暗くはない。途中から弱い雨になった。

(*) トラバース：英語で縦走、横断の意味。登山では、斜面を横方向に横断すること。トラバース道とは、尾根道ではなく、斜面を横断すること。(ウィキペディア)

40分ほど歩き下って行くとレンゲ辻の鞍部に着き休憩する。正面に大きな木造の「女人結界門」があり左の大きな説明板には「世界遺産、大峰山、大峰山寺、大峰奥駈道、女人結界」などの説明と、宗教上の理由により女人結界門から先は女人禁制と書いてあった。

女人結界門をくぐり、山上ヶ岳の核心部に取り付く。鉄製の急な階段をいくつも登り森林限界の尾根に出ると風と雨が強くなってきた。レンゲ辻から40分ほどで着いた山頂域は低い笹の原が広がり、山頂標識があり、隣に、「大峰 山上ヶ岳 頂上 お花畑」の石柱があった。10:35着。右手に進むと、「湧出岩」と「聖蹟」の2本の石柱を中心として、寄進者の名が彫られた石柱で囲まれた中に高さが1m弱の「岩」が鎮座していた。手を合わせお参りする。囲いの外に一等三角点の石柱があった。

登ってきた3人の中年男性と入れ替わり大峰山寺 (*) に降りていく。大きな屋根の軒下にオレンジ色の雨具を着けた若者が休んでいた。近づいてあいさつを交わし、よく見ると雨具の下に白い僧衣をまとった人だった。大峰山寺の正面はどこかと尋ねると、ここですとの返事、大きな階段もなく扉が閉まっていたので気がつかなかった。敷地内には皇太子殿下登拝記念碑もあった。

(*) 大峰山寺：世界遺産・わが国最高所に建つ国重要文化財のお寺で、毎年5月3日から9月23日までの143日間は、山上本堂の扉を開け、この入峯期間中は参詣者、登山客で賑わう。(天川村公式サイト)

大峰山寺周辺には見学できる名所 (*) がたくさんあるみたいだが、この雨では、岩で滑って転ぶのが関の山と思い若者と一緒に下山することにした。

(*) 名所？：妙覚門、日本岩、東ノ硯岩、西ノ硯岩、鷲ノ巢岩、鐘掛岩・・・古い歴史を感じる道 (奥駈道) の両側には、「講」や個人の入峯記念や〇〇回参拝記念などの苔むした石柱や寄進された山門などがたくさんあり、天気の良い

い日に観光気分で楽しみたいと思った。

若者はやはり僧職で、大峰山には何回か来ていること。四国の古義真言宗高野山派のお寺の坊さんでいろいろと話ながら歩いた。自分は何度か滑ったが彼は登山靴でなく、滑りにくいゴム底の白い地下足袋のような履き物だった。

朱色の清浄（若者は“しょうじょう”と言っていた）大橋の女人結界門に12時半過ぎに着いた。すぐ近くの駐車場に駐めてあった彼の車に乗せて貰った。道路標識には距離は1.9kmとあり、助かった。

まずは山荘から貰ってきたおにぎりを食べて腹ごしらえをし、濡れた雨具などを車の中に広げてから洞川温泉センターに向った。若い坊さんは温泉から上がるところで、彼は「道中ご無事で」と言ってくれた。

大峰奥駈道出発地点確認のため吉野町吉野山に移動し、予約していた素泊りの宿にチェックインし、5500円を支払ったら、なんと、2000円分の吉野町発行の観光商品券を貰った。吉野山の桜や金峯山寺（きんぷせんじ）蔵王堂（*）の門前町で栄える吉野山の宿泊施設もコロナの影響で相当困っているのだろう。近くの食堂で観光商品券を活用し豪華な食事と地酒を楽しんだ。

（*）金峯山寺蔵王堂：国宝、山号国軸山。金峯山修験本宗（修験道）の本山。本尊は蔵王権現、開基は役小角（えんのおづぬ=役行者）と伝えられる。（ウィキペディア） 奈良東大寺大仏殿に継ぐ木造大建築。

10月20日（火）

6:30からの蔵王堂での朝の勤行に参加した。蔵王堂では丁度「秘仏本尊特別ご開帳」の期間（10/16~11/30）で、奥に安置されている高さ7mの3体の金剛蔵王大権現（重要文化財）の迫力はすごかった。

その後、大峰奥駈道のルートを経由し金峯山神社まで車でたどり、散歩をしていた地元の話の話を聞いたりして、土地勘を得たので吉野山を後にした。

レンタカーを返し、乗換駅の近鉄橿原（かしはら）神宮前駅で柿の葉寿司を購入し、電車の中でこっそりと食べた。

京都まで移動し、学生時代からの友人M君と久しぶりに会って懇親を深めた。“吉野から熊野本宮大社まで、5泊6日での大峰奥駈道の縦走”を提案したら、酔っ払った勢いからか彼も乗り気だった。

21:53 京都駅八条口発のバスに乗り、21日（水）予定通り無事帰宅した。体重は増えていた。

紀伊半島の秀峰・霊峰4山。長い歴史と人間の営みを感じることができた山行だった。

令和2年11月 NO96 アンチ・エイジング 山旅遊人

<会社近況>

水害復旧工事がほぼ完了しました。

さて、これから寒さが厳しくなりますね。

寒暖の差で身体に負担のかかる時期ですので、今回『浴室暖房換気乾燥機』のご案内をさせていただきました。寒い浴室と熱いお湯の温度差により急激に血圧が変動するヒートショックが起こりやすい時期です。

寒い季節の入浴を快適に楽しめ、安心して服を脱げます。

さらに、換気の機能で衣類乾燥やお風呂のジメジメ解消の手助けなどをしてくれます。詳細は弊社までどうぞお気軽にお問合せ下さい。

11月❁冬支度

いよいよ寒くなる季節です。

本格的に雪が降る前に、タイヤ交換や、巣ごもりなど、準備が必要です。

今年は、インフルエンザと新型コロナのダブル流行も視野に入れてマスクや手洗い、うがいに加え免疫力アップの食事でなんとか予防していきたいものです。無理せず、暖かい冬を迎えられますように。

令和2年11月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>気温も下がり、ますます

おうち時間が増える時期ですが

皆様はどのように過ごされています

でしょうか。我が家は子供たちが散らか

したおもちゃを片付けて一日が終わっ

てしまう日々です。 (ほしの)